

# 議会だより

2022年11月 北海道中川郡豊頃町議会発行  
議会広報特別委員会編集



## 9月定例会

第3回定例会は、9月8日から開会され、町長から提案のあった補正予算など11議案を、いずれも原案どおり可決し、13日に令和3年度各会計決算審査、15日に一般質問等を行って閉会しました。

## 補正予算

### 補正予算の主なもの

◆二宮簡易郵便局舎移転  
改修工事  
2800万円

二宮簡易郵便局を二宮報徳館内に  
移転するための工事

◆新型コロナウィルス  
ワクチン接種事業・  
接種体制確保事業  
384万円

新型コロナウィルスワクチン接種  
に係る業務委託料や接種体制の確保  
に係る経費

◆町外水道区域者助成金  
160万円

水道料金を町外自治体に支払って  
いる住民等に対する基本料金分の助  
成金

◆持続的畑作生産体系確立  
緊急対策事業補助金  
1億8029万円

作物の転換、労働負担軽減や馬鈴  
薯種子の安定供給等の事業について  
支援するもの

◆秋サケ資源増大緊急支援  
事業補助金  
2283万円

漁業者が負担する秋サケ孵化放流  
事業負担金の暫定的な増加分を軽減  
するための補助金

◆プレミアム付特別商品券  
発行事業補助金  
946万円

世界的な社会情勢の変化に伴う原  
油価格・物価高騰により落ち込んだ  
町内での消費購買意欲の喚起のため、  
発行するプレミアム付商品券の販売  
セット数の増加に伴うもの

◆物産直売所緑化工事  
300万円

とよころ物産直売所西側の敷地（土  
砂投入による整地部分）に芝生を敷  
設する工事

◆災害対策備品購入費  
388万円

現在整備中のトンケシ緊急避難場  
所に、防災備蓄資材庫、ソーラーL  
ED街灯、避難場所誘導標識、非常  
用発電機を設置するもの。

会計名	補正額	予算総額
一般会計(第2号)	81万円	65億5,803万円
一般会計(第3号)	3億665万円	68億6,468万円
介護保険特別会計(第1号)	714万円	3億9,546万円
後期高齢者医療特別会計(第1号)	10万円	6,899万円
医療施設特別会計(第1号)	1,576万円	6,655万円
簡易水道特別会計(第2号)	181万円	3億6,620万円

※表示の金額は、1万  
円未満を四捨五入して  
います。





# 令和3年度 各会計の決算を認定

令和3年度一般会計ほか6特別会計の歳入歳出決算は、町監査委員の決算審査意見書とともに議会に提出され、本会議において審議を行った結果、各会計とも認定することに決定しました。各会計の決算額は、下記のとおりです。

## 各会計の歳入歳出決算額 【単位：円】

会計名	歳入総額	歳出総額	差引額	繰越額	実質収支額
一般会計	56億4,514万5,108	55億5,131万3,314	9,383万1,794	28万8,000	9,354万3,794
国民健康保険特別会計	5億3,333万9,278	5億3,131万3,082	202万6,196	0	202万6,196
介護保険特別会計	4億600万1,818	3億8,106万165	2,494万1,653	0	2,494万1,653
後期高齢者医療特別会計	6,785万973	6,769万5,415	15万5,558	0	15万5,558
医療施設特別会計	8,352万7,014	8,293万4,070	59万2,944	0	59万2,944
簡易水道特別会計	3億727万7,633	3億43万5,436	684万2,197	0	684万2,197
公共下水道特別会計	2億6,405万7,166	2億6,159万8,496	245万8,670	0	245万8,670

### 【条例制定・改正等】

▼ 年末年始の休業日の見直しに伴う関係条例の整理に関する条例の制定

年末年始の休業日「12月31日から1月5日」を「12月29日から1月3日」に見直し「*same*」に伴う、関係する条例の条文整理等に係る条例の制定。

▼ 豊頃町職員の育児休業等に関する条例の一部改正

職員の育児休業の取得要件の緩和及び、人事院規則に準じ条項及び文言などの所要の整備をするための改正。

### 【その他の議案】

▼ 豊頃町名誉町民の決定

前町長の宮口孝氏（茂岩栄町）を名誉町民にすることに決定したものを。

▼ 損害賠償額の決定

職員による町公用車での事故により発生した損害賠償額についての専決処分の認定。

▼ 工事請負契約の締結

茂岩高台線ロードヒーティング改修工事の契約。  
契約金額は7,518万5千円。  
工期は令和4年11月30日まで。

### 主な審議内容

#### 条例関係ほか

○ 町議員 公用車の事故に係る同乗者（町民）への初期対応と運転職員への対応は。

○ 同乗者にはすぐに病院に受診していただき、その後保健師による状況確認等により対応している。現在は完治し通常の生活をされているとのこと。運転職員については、町の基準に基づき処分している。

#### 令和4年度補正予算

○ 町議員 二宮簡易郵便局の二宮報徳館への移転改修に2800万円と高額な予算が計上されているが、資材等の高騰によるものか。また新築する選択肢はないか。

○ 資材及び人件費の高騰によるものであると考えられる。またこの金額では、新築の場合は小さい建物にしかならず、交付税措置もないことから改修する形とした。

○ 町議員 軽JNKS対応システム改修業務の内容は。





**A** 軽自動車税納付確認システムの略称であり、軽自動車検査用納税証明書の電子化を図るものである。ついでには既存システムの改修が必要となることから、それらに対応するための業務である。

**Q** 小笠原議員 町外水道区域者助成金において、自家用水・井戸水使用者も助成金の対象となると聞いているが、使用目安や基本料金等の算出についてはどのような計算となるか。

**A** 豊頃町の簡易水道で用いられる基本料金を基本として計算し、助成する考えである。

**Q** 穴崎議員 水道料基本料金の減免制度について、期間を6カ月としているが、次年度以降の考えは。

**A** 今後の物価高騰の状況や社会情勢を勘案し判断していきたい。

**Q** 石田議員・穴谷議員 持続的畑作生産体系確立緊急対策事業の具体的な内容は。

**A** 畑作産業において、病害虫の発生リスクの軽減や需要のある作物への転換、労働力不足等の課題に対応するため、病害抑制と需要に応じた生産拡大の両立、労

働負担軽減、環境に配慮した生産体系の確立や、馬鈴薯の種子の安定供給に関する取り組みを支援とするものである。承認を受けた16事業主体のうち、ハード面である機械の導入が15の事業主体、1事業実施主体がソフト面であるてん菜からの作物の転換、病害虫からの抵抗品種導入の経費支援となっている。



**Q** 小笠原議員 世界的な物価高騰の情勢の中、給食費の値上げについて考えはあるのか。

**A** 保護者の負担を増やさないよう、新型コロナ対策に係る臨時交付金を活用し対応する。今後の値上げについては慎重に検討する。

### 令和3年度決算審査

**Q** 小笠原議員 ドーム型サーマルカメラの購入費が令和2年度より高額になっている理由は。

**A** 令和2年度は1台、令和3年度は2台購入しているため。

**Q** 穴崎議員 茂岩山の林業研修センター及び木工芸館の今後の利用については。

**A** 林業研修センターには、家畜自衛防疫組合の機材ほか備品等を保管している。木工芸館においても備品等は整理しており、一部冬期間使用する町の備品の保管、修理等の中で職員が行っている。両施設における今後の在り方については早急に検討を進めたい。

**Q** 穴崎議員 歯科診療所の診療台の更新についての検討は。また、町立医院含めて土足で入れるように出来ないか。

**A** 歯科診療所の診療台については、所長からの要望もあり、次年度予算において台数含め検討を進めている。土足での立ち入りについては衛生的な部分があるため、現時点で必要性を感じていない。

**Q** 小笠原議員 住宅利用料、水道・下水道使用料金などの収入未済額が増えている現状について、コロナ禍による影響があるのか。

**A** 長期にわたり滞納されている方が複数名いることから、コロナの影響によるものだけではなくと考えている。

## 意見書

### ○国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

産業厚生常任委員会にて審議した意見書案が、坂口尚示産業厚生常任委員長から提案説明され、原案どおり可決し、関係省庁・機関に提出されました。



提案説明する坂口尚示委員長



# 一般質問

## 大雨による農地の冠水対策について



坂口 尚示 議員

Q 豊頃町が少雨でも十勝川上流で大雨となれば十勝川は増水し、本町で排水機場がない所の畑は冠水する。早急な対策が求められるが町長の考えは。

A 按田町長 これまでも台風や低気圧の襲来後に、河川の水位が上昇し、しばらくの間は排水機場、救急排水、移動用排水ポンプ等を稼働させる状況があったが、今回の8月15日からの降雨のように本町では降水量が少ないにもかかわらず、上流域での出水によって被害を受けると

## マイナンバーカードの普及について



岩井 明 議員

Q 本町におけるマイナンバーカードの普及状況は。

A 按田町長 現在政府では、令和4年度末までにほぼ全国民に行き渡ることを目指して、普及に取り組んでいるが、マイナンバーカードの普及は、8月末現在で全国では47・4%、北海道全体では44・6%というようにな5割に満たない状況であり、本町では38・9%と北海道全体の率にも満たしていないという状況となっている。このような状況か

いうことは、私も理不尽極まりないことだと考えている。現在排水機場の整備、救急排水施設の整備について、国会議員その他関係各所に要望申請をしているところである。排水設備等の整備についてはハードルが高いというところはあるが、今後も強く国に要望してまいりたい。

Q 国のマイナンバーカード普及の取り組み等に対する町長の見解は。

A 按田町長 国からも普及促進を図るよう話があり、マイナンバーカードの取得について様々な取り組みを実施しているところである。

ただし、あくまで個人の意志による申請であり、取得するかしないかは任意となるが、基本的な考え方である全国どこでも便利で快適に暮らせる社会に向けて、安心

Q 本町における個人情報の漏洩に対する対策等は。

A 按田町長 マイナンバー制度における個人情報の漏洩に対する対策については、制度、システム両面で様々な安全管理という措置が講じられている。町では個人の申請によって発行機関からカードが町に送られてくるが、住民に交付するまでは施錠された耐火金庫に厳重に保管しているという状況である。

ら、「重点フォローアップ団体」に指定され、総務省から、マイナンバーカードの普及促進の取り組みを強化するように指示されているところである。

## 世界的な原油、肥料、飼料の高騰により農業所得の減益が懸念される中、我が町における支援対策について



小笠原茂人 議員

Q 国の原油・肥料高騰に対する支援策が打ち出されているが、町独自の農業関連の支援策についての考えは。

A 按田町長 海外情勢の不安定化や、円安などによる原油や輸入肥料、飼料価格の高騰などがみられ、一次産業のみならず全業種において影響が及ぶ状況となっている。町独自の施策に関しては、過去にリーマンショックによる原油高により生

安全で利便性の高いデジタル社会の早期実現を目指すという国の考え方に異論はないところである。このような点を踏まえ、町としてもマイナンバーカードの普及促進に努めていく。





料への独自支援を実施した経過がある。また管内の町村においても農家への独自助成に取り組みたいところだが報道されている。

今後国からの農業支援の状況により、本町がどの程度の支援を受けられるのかをしっかりと見極めたいうえで、独自の対策を講じる必要があると考えている。すでに担当課には関係機関や他の町村からの情報収集を含め、検討するよう指示をしている。

**Q** 飼料や肥料価格が高騰する中、農家、特に酪農家に対する政策的な水道料金の支援はできないか。  
**A** 按田町長 物価高騰対策として、これから冬を迎えるにあたり町民生活へ及ぼす影響を踏まえ、10月からの水道基本料金減免について予算の議決をいただいたところである。

酪農家に対しては、従来から実施している家畜飼養用水緊急対策事業を継続して実施することとしており、水道使用料金の支援については、一部の限られた業種だけでなく、町民や他の事業者含め一律という考え方でやらせていただきたいと考えている。

**北海道町村議会議長会主催  
議員研修会に参加**

7月6日（水）、札幌コンベンションセンター（札幌市）において、北海道町村議会議長会主催議員研修会が開催され、全議員が出席しました。研修会では、政治ジャーナリストの泉宏氏による「参院選最終情勢分析と選挙後の政局展望」と題した講演が行われました。



研修会講師の泉宏氏

新型コロナウイルス感染症防止のため、人数制限や感染対策を十分に行った会場において、例年より時間を短縮した研修会でありましたが、時折マイクを取りながら講演に耳を傾けました。

**福島県相馬市議会  
新政会 行政視察**

7月27日（水）、福島県相馬市議会新政会（菊地清次会長ほか6名）が行政視察のため豊頃町へ来町しました。本町の農林水産業のブランド作物の振興について、その取り組みや課題、今後の展望などを本町職員から説明し、その後意見交換を行いました。意見交換終了後は、豊頃町農業協同組合の小麦乾燥施設、切干大根乾燥施設について、農協職員から説明を受け視察し、最後に二宮報徳神社を参拝しました。



相馬市議会新政会による行政視察のようす

**滑川市議会議長  
相馬市議会副議長来町**

10月1日（土）、3年ぶりに「とよころ産業まつり」が開催され、来賓として本町の姉妹都市である滑川市から、高橋久光議長、柿沢昌宏副市長が、相馬市から立谷耕一副議長、佐藤栄喜総務部長が来町されました。産業まつり当日は好天に恵まれており、来町された皆様はまつりに参加されたのち、本町理事者及び議会議員と交流を深められました。



開会式における来賓紹介のようす



総務文教常任

委員会レポート

総務文教常任委員会（小笠原茂人委員長）は、7月29日、大津地区住民を津波被害から守るための避難体制及び新たに整備が計画されているトンケシ緊急避難場所整備等の状況について調査を実施しました。

1 調査の経過と結果

(1) 大津住民の避難体制について

今年度中に「豊頃町地域防災計画」及び「ハザードマップ」の改定を行うが、津波災害警戒区域の見直しなどに伴う大津地域での浸水想定高自体は低くなっており津波による浸水域は基本的に変わっていないことから、大津地区住民の避難については、国道336号避難場所への避難を前提とすることに変更はない。しかし、新たに公表された津波到達時間（7分から23分）や最大津波高（22・3メートル）、地震等による道路寸断なども想定し、新たにトンケシ緊急避難場所の整備を行っている。



委員会室での聞き取り調査

(2) 大津地区津波住民避難訓練について

地震等により道道大津旅来線が寸断され国道336号線に出られないことなどを想定してトンケシ緊急避難場所を整備しているが、津波発生時の大津住民の基本的な避難の考え方としては、陸側に向かって避難することが前提となることから、避難訓練については、従来どおり陸側（国道336号線に面して設けられた「津波緊急避難場所」）に逃げることを想定して実施することとしている。

(3) トンケシ緊急避難場所の整備計画について

日本海溝・千島海溝巨大地震対策の特別措置法改正により、大津地域が特別強化地域に指定された場合、国からの補助率の嵩上げが見込まれるところであり、それらを活用して順次整備を実施していく予定である。

令和4年度においては、「トンケシ緊急避難場所避難路調査設計業務（418万円）」及び「トンケシ緊急避難場所避難路改良工事（3,795万円）」を施工し整備する

とともに、今後補正により「トンケシ緊急避難場所防災備蓄資材庫」の設置も予定している。

また、令和5年度以降には、漁港迂回道路からトンケシ高台に接続する新たな避難経路など、多様な避難経路の検討を行うとともにトンケシ緊急避難場所防災備蓄資材庫への防災備品の拡充を図ることとしている。



トンケシ高台での視察

(4) 大津地区住民への周知について

トンケシ緊急避難場所の整備計画を含めた今後の避難体制及び北海道から示された日本海溝・千島海溝沿いを震源とする巨大地震の被害想定結果についての大津地区住民説明会を、令和4年8月3日

に大津コミセンで実施することとしている。

2 まとめ

トンケシ緊急避難場所整備については、大津住民が津波発生時に避難をするための選択肢を増やすためのものとして有効であることが確認できた。

しかし、現在は大津市街地から直接トンケシ高台に通じる道路が無いことから、今後は大津市街地から直接トンケシ高台に接続するための新たな避難経路など、多様な避難経路を早急に検討する必要があるとの意見と、道路が寸断された場合の徒歩での避難については、避難タワーの設置や、避難艇の配置などを更に検討することも必要ではないかとの意見が出された。また大津地域住民には、自主防災組織を含め現在実施している避難訓練により、津波発生時に確実に避難が完了できるよう十分な説明と周知が必要との意見も出された。

今後においては、大津地区に限らず防災体制をより強固なものとするには、町民及び関係機関との関わりを密にし、町全体で災害に強いまちづくりの取組みを進めるべきとの意見が出された。



# 産業厚生常任 委員会レポート

産業厚生常任委員会（坂口尚示委員長）は、農作物の作況について、8月24日、豊頃町農業改良推進協議会が主催する作況調査に同行し、調査を行いました。

## 1 調査の経過と結果

調査当日は、町内の9圃場8作物について1圃場ごとの作物の草丈、着実数などの生育状況や、病害虫の発生状況、農作業の進捗状況及び今後の注意事項などについて説明を受けた。本年は、馬鈴薯の植付作業、てん菜の移植作業及び大豆、小豆のは種作業は平年並みかやや早めに行われたが、降雨の影響により直播栽培のてん菜、金時及び手亡のは種作業は平年より遅れて行われた。



現地視察及び説明聴取のようす

調査時点での作物ごとの生育状況は、てん菜については、草丈、葉数及び根周は平年より良く生育は順調であったが、一部で多雨に

よる湿害等が散見され、今後高温多湿による褐斑病の発生リスクは高い状況となっている。馬鈴薯については、6月上旬までは少雨であったが、その後は高温多湿で推移したため、軟弱徒長となり倒伏も多くなっており、1株当たりのいも数はやや少なく、1個当たりのいも重も小さい傾向である。豆類は、発芽後は高温傾向で、降雨もあり、茎葉の生育は平年並みから上回る傾向で推移し、開花は大豆、小豆及び手亡が平年よりやや早く、金時は平年並みとなり、豆類全般的に平年に比べ草丈は高く、莢数は小豆以外少ない状態となっている。牧草については、一番草の収穫作業は平年並みに始まったが、降雨の影響によりロール体系の収穫作業ができず、平年より13日遅れて作業が終了し、収量は平年並みの見込みとなっている。二番草については、草丈がやや長い状況で平年並みの生育であるが、一番草の収穫時期の差で、圃場間の差は大きくなっている。

なお、すでに収穫作業の終了した秋まき小麦については、根雪が1月上旬と遅く、3月にも降雪があったために起生期は遅くなり、その後は平年並みからやや早く推移していたが、6月上旬の低温寡照により生育が鈍化し、出穂から開花がばらつき、6月下旬からの高音多雨や低温気温、7月中旬以降の多雨の影響で根痛みが進んだため、成熟期が平年より早くなり、収穫作業も平年より早く始まり早く終了したため、収量は昨年を下回り乾麦で反収が概ね9・2俵、製品反収では約8俵を見込む結果となっている。

調査時点での状況は以上のとおりであるが、今後の台風等により作物への影響が懸念されることである。

また、今後においては、病害虫による被害、霜の降りる時期によっては豆類の収穫に悪影響を及ぼすことも考えられる。

全目的に中長期的な明・暗渠排水などの農地基盤整備対策により、安定的な収量確保に向けた対策を講じることや、本格的な収穫期を迎えるに当たり農作業事故の注意を喚起するよう関係機関等を通じて指導の徹底を求めるなどの意見が出された。

# 議会日誌

- 〔9月〕
- 5日 議会運営委員会
- 8日 第3回定例会（1日目）  
（補正予算、条例改正ほか）  
議員全員協議会  
総務文教常任委員会  
産業厚生常任委員会
- 13日 第3回定例会（2日目）  
（令和3年度決算認定）
- 15日 第3回定例会（3日目）  
（一般質問、意見書ほか）  
議会広報特別委員会
- 〔10月〕
- 1日 とよこる産業まつり参加
- 5日 議会広報特別委員会
- ◎今後の予定
- 〔11月〕
- 9日 全国議長大会 ～東京都
- 24日 第3回臨時会
- 28日 一部事務組合議会定例会  
～帯広市
- 〔12月〕
- 5日 議会運営委員会
- 8日 第4回定例会（1日目）  
（補正予算、条例改正ほか）  
総務文教常任委員会  
産業厚生常任委員会
- 15日 第4回定例会（2日目）  
（一般質問ほか）  
議会広報特別委員会